

●新生児一過性多呼吸（TTN）

新生児呼吸障害の中で最も頻度が高く、呼吸適応の遅れにより生じたものです。吸った空気は気管を通り気管支、細気管支をすすみ肺胞に到達します。肺胞は風船のように膨らんだり縮んだりしながら酸素を取り込み、二酸化炭素を排出します。羊水中の胎児の肺は肺水とよばれる液体で満たされています。陣痛・分娩に伴い肺水は吸収、排出され、出生後の呼吸により肺水はどんどん吸収され空気と入れ代わります。

肺水はおおよそ生後6時間頃までに肺胞からなくなります。この入れかわりがうまく行われないと、肺胞内やその周囲に肺水が残り呼吸を妨げます。1回の呼吸での酸素の取り込みや、二酸化炭素排出が不十分なため、呼吸数を増やして（多呼吸）それを補います。誘因は早産、陣痛のない予定帝王切開、胎児の低酸素による呼吸確立の遅れなどがあげられます。ほとんどの場合、数日の酸素投与で呼吸状態は改善しますが、人工呼吸器管理が必要なこともあります。